

令和3年度 第9回市民まちづくり会議 次第

日 時 令和4年3月15日(火)
午後6時30分～午後8時00分
場 所 市役所本館2階 全員協議会室

1 開 会

2 委員発表

意見発表(倉寫委員)ふりかえり

3 グループワーク

(1) 今後の進め方について

(2) グループ発表

4 その他

令和4年度市民まちづくり会議委員の追加募集について

5 閉会

市民まちづくり会議名簿

	氏名	ふりがな
副委員長	坂口 永一	さかぐち えいいち
副委員長	花岡 裕子	はなおか ゆうこ
	有賀 剛	あるが つよし
	五十嵐 豊峰	いがらし とよみね
	大谷 真宙	おおたに まちゆう
	荻原 猛	おぎわら たけし
	小夫 真	おぶ まこと
	倉崙 智彦	くらしま ともひこ
	篠原 博文	しのはら ひろふみ
	島田 直政	しまだ なおまさ
	鈴木 絵美	すずき えみ
	竹内 直弘	たけうち なおひろ
	田中 隆	たなか たかし
	柘植 香織	つげ かおり
	中澤 亥三	なかざわ いぞう
	水間 源	みずま はじめ
	村山 弘子	むらやま ひろこ
	柳橋 悠香	やなぎばし ゆか

東御市のこれから

令和3年9月29日
市民まちづくり会議委員 倉 嶋

1 湯の丸高地トレーニング施設の展望

- (1) 高地トレーニング施設の広域化
 - ・北側 群馬県嬭恋村
 - ・西側 上田市菅平高原
 - ・東側 小諸市高峰高原
 - ・マラソンは 42.195km を走る
- (2) 湯の丸高地トレーニングセンターの現状
- (3) 問題点
- (4) 日本を代表する高地トレーニングセンターへ

2 公共交通の充実

- (1) 公共交通について（車社会での公共交通）
個人差がある。事故。
- (2) 利用者、高齢者（約 3,500 人）など（交通生活弱者の足） 自助・共助・公助
 - ア 高齢者に係る交通事故発生・交通安全
65 歳以上の事故 1,930 件（令和 2 年長野県）
高齢者の免許返納 8,441 人（令和 2 年長野県）
 - イ コミュニティバスとデマンドバスの併用
「ライデン」がベスト
- (3) 10 年 20 年を見据えた公共交通
 - ア 市民の理解、エリア内のタクシー業者などとの共存
 - イ 利便性
 - ウ 運用（しなの鉄道、東部湯の丸インターチェンジ（高速バス）、路線バスとの連携）
 - エ 実証実験（コロナ禍で数字が低カット）
 - （オ ぶつからない車、全自動運転車両の普及はすぐではない）
- (4) 是非ともコミュニティバスが市内各所を走る街にしたい

3 その他

(1) 市民会議での要望

ア 地元ブドウ栽培農家

季節で来ていただく人たちの宿舎

イ 東御市にある事業所（製造業であれば工場）で、その会社の本社等で働く場合のようなスキルアップできる労働環境を行政で各企業に働きかけてもらいたい

(2) 「ほどよく、田舎。とうみ」 TOMI CITY のロゴから

ア 横堰は市内全体では人口減少の中、増加している。移住の方々と地元の関係

（移住して来た方々の住宅の一角があり、ビバリーヒルズならぬヨコセギヒルズと呼ばれている。そんな中での公民館での区費）

イ 今は改善、市の臨時職員の採用について

ウ 「ほどよく、田舎。とうみ」にふさわしいメルヘンチックなほのぼのした街
TOMI CITY の英語圏人口 15 億人 馴染みやすいのでは

(3) 地元産品

- ・食肉類 牧舎みねむら
- ・乳製品（チーズなど） アトリエ・ド・フロマージュ
- ・地元ワイン、ビール 市内ワイナリーなど

(4) 荒廃農地、遊休農地が目につく

4 まとめ

イラストマップ

市民の一人一人が幸福感（首都圏とのアクセス、市内交通の利便性、飲食店が多いなど）を持つ
明るい街。通過するだけの街から、独自性のある街へ。

夢物語であるかもしれませんが、提案をしました。

東御市市民まちづくり会議委員の追加募集について

東御市市民まちづくり会議委員の追加募集にあたっては、次のとおりとする。

- 1 応募資格 市内に在住または勤務し、令和4年4月1日現在満18歳以上の方
- 2 任 期 任命の日から令和6年3月31日まで
- 3 活動内容 ① まちづくりを推進するための調査、研究
② まちづくりに関する事業の提言、検証及び実践
③ その他まちづくりに必要な事項
- 4 応募方法 応募用紙に必要事項と「応募の動機」を800字程度にまとめ、郵送、メールまたは持参により提出いただく。
応募用紙は企画振興課へ請求いただくか、市のホームページからダウンロードしていただく。
- 5 募集期限 令和4年4月29日（金）必着
- 6 選考方法 書類選考し、結果は本人に通知する。

協働のまちづくりのためのワークショップ ホームワークのまとめ

総合計画	目指す状態	分野	視点	民間(市民・企業・団体等)できそうなこと	行政と一緒にできるといいこと
I 豊かな自然と人が共生するまち					
◆地球環境への負荷の少ないまち					
	地の利を活かした再生可能エネルギーの活用	脱炭素化に向けた取組		<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラルへの取組を行う。(屋根上太陽光・省エネ) 温暖化ガス排出を減らした分、税の減免が受けられるようなインセンティブがあるイメージ。 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の二酸化炭素排出量を算定し、削減した分をJ-クレジットなどで売却。売却益は近い将来必要になる、市内小学校の建て替えに備える。協力す世帯・法人に対して税の減免などを行うことの検討。 一方無秩序なソーラー発電が行われないよう促進と統制のバランスの検討。
II 安全、安心の社会基盤が支える暮らしやすいまち					
◆未利用空間の利活用が活発なまち ◆情報が集まり、まちづくりを担う組織・場のあるまち					
住環境づくり	空き家等の活用	空き家バンクの有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 空き家または空き農地の利活用ができるかどうかのスタートラインは 地主の意思表示を市内(または近隣)のどこかの組織(または個人)が把握している事からスタートするものである。この観点から地主の意思表示を確認する市民団体の存在が必要である。 市民団体のメンバーは地主と対面談を行い 空き家バンクに公開可能なレベルに情報を整える。 市民団体のメンバーは空き家バンクの物件売り込みを多方面に展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 空き家状況を各区長 支区長 を通して調査しており 長期間空き家になっている物件を把握しているはずなので 長期間空き家マップ作成をする。 市民団体の活動にアドバイスを行う。 まちづくり活性化には古民家や空き店舗の利活用も想定されるが、個人情報絡む中で該当物件の不動産情報を把握している行政側で不動産会社と協働し、橋渡し役のサポートができないか検討してほしい。 	
		新たな活用方法の創出	<ul style="list-style-type: none"> 働き方の多様化に合わせた都市部勤務者へのセカンドハウスの活用として古民家利活用する提案 都市本社企業が多様な働き方の福利厚生を充実させるためのウィークディ活用空間の提案(企業との賃貸契約型・企業所有型など) 		
		情報発信	<ul style="list-style-type: none"> SNSを通じた古民家や空き店舗などの不動産情報の集約・発信 空き店舗、空き家の情報提供(地元住民含む)、積極的(定期的)な情報発信する 	<ul style="list-style-type: none"> 空き店舗、空き家の情報発信(市報・市HPなど) 上記物件を積極的登録して頂く仕組み、補助金制度の拡充 	
◆情報が集まり、まちづくりを担う組織・場のあるまち ◆車が運転できなくても暮らしやすく、環境にも配慮しているまち ◆使いやすい暮らしの足が確保されているまち ◆エコな移動手段として自転車の活用が進んでいるまち ◆東御市ならではの店やアクティビティが充実したまち					
交通体系全体の改善		移動ニーズの把握	<ul style="list-style-type: none"> 住民の行動スタイルから 住民の移動状態がおおよそシミュレーションができそうなので、そのような事が研究できる大学に移動手段の選択ができる研究依頼をする。 交通手段に焦点を当てた地域の現状、希望に関する調査(※現在、地域のどのような目的、場面で交通手段が十分ではないのかについて調査を行います。病院や買い物といった場面は容易に想定がつきますが、地域で開催されるいきいきサロンへの移動手段なども課題として挙げられる地域もあり、広い範囲、場面を想定した調査が必要です。そこで、地域でどのような場面でどのようなことを目的とした交通手段が十分ではないのかについて調査を行います。) 		
		交通弱者の足の充実	<ul style="list-style-type: none"> 車がかえらない方(高齢者、障害者など)を中心とした施策としては、やはりふんだんに公共交通中心に考えるべき。 財政的に云々といわれるが、公共交通を活用して、市民が動くということは、買い物、温泉入浴等にも活気が付くことになる。家に閉じこもっていなければならない人たちが外出機会が増え、心や体の健康的にもメリットが生まれ、活性化につながる。 免許を返納して安心だとしている方々がいる。いつも事故らないか、本人も、家族も心配している。 それには、返納しても安心して暮らせる地域にならなければ、返せない。 	<ul style="list-style-type: none"> 財政的なことばかり考えるが、ほかの事業などを十分に精査すれば、変わるものはないか。とかく、いろいろな補助金等に移りやすさを感じますが、本当に必要なものへの助成がとても大事ではないかと考えます。車の移動手段のない方から見れば、レッツ号が、あることにより、行動範囲が、市内全域に広がります。土、日にないと催し物などにも出れず大変な不便をしているという。 戸口から戸口までではなくても、停留所を細かく増やしてもらい、活用できる方法はどうか。 現在、検討はされているが、戸口から戸口までは、やはり、無理があると思われるので、停留所方式で、細かく設けるのはどうか。 夕方の時間を長くし、8時ころまでの運行はどうか。勤め帰りや懇親会などに参加した人も利用できるかも。(タクシーに乗らないか?) 公共交通機関は、様々な市民の社会生活に不可欠であり、行政の責務、使命であります。「コミュニティバス」「デマンドバス」を駆使した市民のための公共交通の充実が重要です。 スクールバスの運用方法の検討。 	
		利用促進	<ul style="list-style-type: none"> 市民が車に頼らない、または減らす生活を送ること(市のお店が少しでも潤う。近隣同士の新しい出会いが増える。移住者が求めてそうな暮らしはスロー。子どもが安心して成長する。高齢になった時自分で色々なことを人に頼らなくてもすむ可能性あり。環境に優しいまち。地球にやさしいまち東御) 	<ul style="list-style-type: none"> 忙しい人が車を控えることは難しいので、バスを使うなど車よりメリットのあるシステムを使う。 歩行が難しい人にはしっかり寄り添う。これから高齢になる方々には何か魅力ある方法で車を控える、または返納しても安心するシステムとメリットが必要。 自転車や人が道に増えれば危険も増えると思いがちですが、逆に車が減って運転時の意識を変える取組をする。 コミュニティ活動に参加する人の中で、家から活動施設まで遠い場合にはデマンドバスを利用してもらおう。 	

公共交通	デマンドバスの充実	運行改善	<ul style="list-style-type: none"> ・レッツ号がもう少し使いやすいほうがいい。時間を長くしたほうが、利用が増える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レッツ号は、高齢者や返納者ばかりでないという認識なので、誰でも乗れるということをしっかり広報してほしい。 ・今後の市民の移動手段についての検討は、緊急でないにしろ、個人の利便性を優先したシステムが要望されている。利便性の優先とは、自家用車で自分の思いのまま移動できるシステムの構築である。そこで動体は市内循環バスであったりタクシーであったり種々であってもいいが、動体の 呼び出し 料金支払いは近隣市町村と共通のシステム＝サイトが利用できるようにすべきと思います。行政はそのところを監督すべきと思います。
		協働の公共交通づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「デマンド交通」の一種で住民がドライバーとなって車を融通し、目的地まで送迎する仕組みをタクシー会社 バス会社輸送会社等々と運用アプリ会社と共同開発する。 ・過疎地域では自家用車を用いた有償送迎が認められているようなので 住民ドライバーのある程度の情報は得られそう。 ・住民の足として全国で高齢者 過疎地域対象のシステムが開発されている。市民の足研究会(仮称)を発足させ 見学会や行政が今まで進めてきた方法についての話し合いができる場を設けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民がドライバーとなって車を融通する「デマンド交通」の制度を前提としての提案です。 ・デマンド交通を利用する住民は居住地域だけでなく近隣地域の施設に出かける頻度が高い。そのため行政区をまたぐ制度として設計が必要だと感じている。そのため県が住民ドライバーとして車を融通する「デマンド交通」制度の指針を作成すると 市町村では制度に行政間の壁が少なくなり 制度の活用がしやすくなる。
	福祉移動サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・東御市に合った新たな支えあいの移送システムの検討 ・福祉有償運送システムの検討 (※公共交通機関や市のデマンド交通、タクシーなど、様々な交通手段が存在する中、その交通手段では十分な移動方法が確保できない人に向けた移送システムとして、行政等と協力をしながら福祉移送ボランティア、福祉有償運送等を含め、適切な方法を検討します。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンに行く人に向けた巡回バスの送迎 ・障害があり歩くことも大変な方は、福祉的なサービスを受けるとして、分けた方法がいいです。 	
	環境にやさしい移動手段(自転車)の活用	シェアサイクルの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・市民へのシェアサイクル・eバイクを利用したイベントの開催 ・自転車を利用した際の正しい通行方法の周知 ・マイ自転車健康維持(買い物など、地元を使う) 	<ul style="list-style-type: none"> ・シェアサイクル先進地への視察と民間事業者も含めて導入方法を検討する。(市内移動用電動自転車＝シェアサイクル) (※昨年上田市と千曲市でスマホで予約して利用するシェアサイクル の試験導入をしていた。) ・シェアサイクル導入後の利用方法の周知 ・貸し出し用eバイク(観光用)の導入(田中駅、中央公園、湯ノ丸等) ・自転車による正しい通行方法に関する講習会の開催 ・シェアサイクル、レンタルサイクル導入
		利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・交通量が少なく比較的安全に通行できるサイクリングコースの設定と地図の作成。(見所や飲食店等の記載)(コース例:別添2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路を避けた 自転車専用道路(車の通行量がほとんどない道)を推奨する =東部中学校に自転車通学する生徒に自転車道路にかんするアンケートを実施し実情を認識する ・通勤通学の手段として駅まで自転車で移動し、そのままの鉄道にのせて目的駅で降り、学校や職場に通えるサイクルトレイン実施の働きかけを市民団体や行政が一体となって働きかける。場合によっては整備費用などを行政が負担する。
		自転車を活用したまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間 自転車のトラブルに対処するレスキュー会社がある ・駐輪場にアシスト自転車のバッテリーを充電するスタンドがある ・アシスト自転車のバッテリーを共通化する ・免許返納後の移動手段として、電動自転車を利用できる ・サイクリング愛好会の設置。活動を通じた市内の見所、課題の発見 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリング道の整備と自転車ナビラインの設置 ・マウンテンバイク用のコースを湯ノ丸に開設する(開設済み?) ・市民のeバイク、電動自転車購入時の補助金制度 ・店舗等のサイクルラック導入に対する補助金制度 ・公園や観光施設にサイクルラックを設置 ・3輪自転車2人乗りを許可する ・個人が自転車を購入する際の補助 ・サイクリング愛好会に関して、広報でのメンバー募集 ・上田一軽井沢間の電車へ自転車乗り入れ ・田中駅2番線ホーム移動のためのエレベーターもしくは構内踏切の設置
東御市地域通貨『雷電(ライデン)』の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・東御市地域通貨『雷電(ライデン)』の利用方法や管理方法への協力など 	<ul style="list-style-type: none"> ・東御市地域通貨『雷電(ライデン)』の導入 (※デマンドバスの乗車、シェアサイクル貸出し、多世代交流施設(別項目参照)の利用に使用できるようにしてはどうか。※流通ルールができてくれば、将来は地元民の利用だけでなく、観光客(入手方法は要検討)にも利用して頂ければ有難い。) ・地域通貨の導入に向けて策定、発行、ルール作りなど (※手形(通貨は例えば切手程度のモノクロシール)で、手形帳に貼り付ける。使用したら専用のゴム印で消印を押印する。※利用範囲や発行基準などの計画(予算処置が必要)) 		

Ⅲ 子供も大人も輝き、人と文化を育むまち

- ◆子どもが学びや遊びを通じてのびのび育つまち
- ◆子どもが安心していられる場所が確保されているまち
- ◆居場所が確保されているまち
- ◆地域で子どもを育てるまち
- ◆若者・子育て世代が安心安全・楽しんで暮らせるまち
- ◆使いやすい暮らしの足が確保されているまち
- ◆地域資源を活かした産業が元気なまち
- ◆未利用空間の利活用が活発なまち
- ◆歴史文化を楽しめるまち

子ども	子どもの居場所づくりと教育環境の整備	放課後の児童クラブの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後、子どもたちは児童館・児童クラブへ行き、そこで今日、自分のやりたいこと(例:ドッジボール、柔道、マレットゴルフなどのスポーツや、おりがみ、そろばん、宿題、読書、野菜作り、パソコン、習字など)を選んで、自分の名札をかける。その名札をかけたグループで遊んだり、スポーツなり、学習なりをして過ごす。 (※やりたいこと1つにつき、1～2名のボランティアが教えたり、見守ったり、危険のないようにする。) ・公民館や児童館で学校帰りの子どもが、宿題や勉強でわからなかったことなどを教えてくれる地区の住民がおり、元学校教諭や資格がなくても教えることに興味がある住民に先生になってもらい学習の補習を行ってくれる。 ・校庭の空き部分の活用、樹木を使った遊び(ツリーハウス、秘密基地など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・何ができるか募集の時に知らせてもらい、登録する。 ・毎日でもなくても1週間に1日でもよいし、1か月に1回でもよいので登録してもらい、予定に入れる。 ・ボランティアには0円でなく、1回500円～1000円くらい差し上げることも長続きすると思う。 ・予定の立案は児童館指導者とする。 ・場所の確保
		子どもの遊び場の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが遊ぶことのできる運動場・公園が少ないので、市民、特に若者がエキサイティングできる(楽しめる、興奮できる)取組や場所、店舗、施設・・・「SanyTOMI」の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路・歩道・お散歩道(健康増進)の整備 ・子どもが遊ぶことのできる運動場・公園や環境整備
		子どもの見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校も、中学校も学校へ行くことは即、親が送るものという感覚が沢山あるように感じる。登校時の、子ども同士の遊びながら、会話しながら行くことがどのくらい子どもにとって素晴らしいことか、大人たちに思い起こしてほしい。ただ、いろいろなことが考えられるので危険と思うと送る親もいると思うので、地域で、各区ごとに、通学路の安全な登下校の見守りについて真剣に考えて欲しい。 	
		子ども食堂	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども食堂的な活動の場 ・子ども食堂を連携して運営する。 ・核になる人を中心にして、できるだけ多くの人に関わっていただく。 	
		学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・同世代の方(特に高齢者)でサークルを作り、定期的に活動する (※主な活動として、子や孫の学習指導をし、小・中学校の学力を県内一にする。⇒移住者が増える) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の場づくりと、講演会や見学ツアーなどによる指導者の育成
	様々な体験の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりの組織の中に、青少年育成部会等に関する部分を作り、そこを中心にして、活動を開始、展開する。各地域により、性格、風習、習慣なども違うので、その点は重視する。 ・まずは、教育委員会で、放課後や休日の学校を開放することを決め、地域づくりの会が、自由に使用できる空間、施設などの設定ができること。 ・地域づくりの組織は、地域の人材の確保をする。 ・その人材を使い、各種のメニューを用意する。 ・校庭を使った、体育(鬼ごっこなど簡単なもの。トラックを使った陸上競技等々) ・図書館の利用、調理室の利用などのメニューを用意。 ・子供たちにいろいろな体験や仲間づくりをさせることを目的にする。 ・市外、県外に出たときに、大きくなった時に、楽しく、懐かしく思い出させられる多くの体験をしておく。 ・マルシェでの音楽イベント・アートイベント・eスポーツイベントといった 10代の市民が自身の能力・スキル・個性を表現できる空間の設定。 ・10代の市民が学んだこと・もつてることを活かせる役割の提供 ・オンライン囲碁、将棋クラブのほか、状況が許せばオンラインゲームなどの会などを作ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会が、市所で、統括できる職員(これは重要人物)を中心に、各地区の地域づくりの担当部話し合い、できることから洗い出しをして、実行可能なことから始める。(先進地視察)また、放課後、子どもたちが下校してしまえば、各区などで、子ども同士が遊べていないことを認識することから始める。 ・未来の東御市、日本国を背負って立つのは、現在の子どもたちであることから、子どもたちを経験豊かな子供に、故郷を愛することのできる子どもに、育てていかなければならないことを再認識しながら、予算もつけて実行していく。 ・地域と行政の一体化でなければ成り立たない、重要な部分です。 ・10代の市民が自身の能力・スキル・個性を表現できる空間の設定に向けた支援と、有害な児童労働などを防ぐあるいは起きてしまった場合のノウハウ・仕組みの設定 ・市の広報分野、広報やHP、デザインや英語文章、インタビューなどでできる作業をやってみたいあるいは得意とする10代と協業することの検討 	

趣味等で集まる市民活動の充実	テーマ型コミュニティづくり			・市民、特に若者がエキサイティングできる(楽しめる、興奮できる)取組や場所、環境の創造、店舗、各種クラブチームの創造
	生涯学習	講座等への参加促進	・公民館活動でのセミナーへの参加 ・人と人の緩やかなつながりを作る役目 ・幼児から年寄りまで共に集まれる企画(ワイン会、カラオケ大会、お散歩大会など、自分たちが楽しめる企画の年間行事)	・生涯学習で多くの教室や講座があるが、そのことだけにとどまらずに、無料で施設を借り、冷暖房や電気などの使用ができていないことに対して、少しでも、ボランティアの心を持ちながらそこに参加するという気持ちを養う指導をしてほしい。 東御市の生涯学習は、先進的でとても素晴らしいと思っていますが、このところを一緒に考える市民の育成が少し、忘れられているのが欠点。市民一人ひとりの「一人1ボランティア」の目標をもって、まちづくりをしていただきたい。 ・どこでどんなことをしているのかスケジュールをSNSで広げる
			場づくり	・多世代交流施設『とうみの家』の運営(スタッフ) ・企画・運営への巻き込み・役割分担をきっかけとした世代を超えた交流・社会の動きを身をもって感じられ、サードプレスを得やすい機会の提供。 ・オンラインサークル設立や市公式のフォーラム運営支援
	スポーツ活動の推進		・セミナー講師や体育協会による指導員の派遣 ・スポーツは身体を自然に使うことができる環境のいいところだと思うので、これからの子どもたちに進められる ・多くの市民がクライミングに親しめるイベントの開催 ・孺恋村とのアウトドアスポーツ・アクティビティでの連携	・「岩登り」、おおきな岩のある地域を運動公園にする
	文化財の保存と活用		・歴史・文化(海野宿／江戸時代、祢津／平安・鎌倉・戦国時代)を活かした研究会及び勉強会の実施 ・【東御市の各種、日本一】の再認識(発見)	・歴史・文化(海野宿／江戸時代、祢津／平安・鎌倉・戦国時代)を活かした研究会・勉強会の実施(市民大学講座)
	地域の文化や伝統行事の継承		・昔行われていた地区の行事、例えばしめ縄づくりにちなんだ、もっと優しいワラを使った遊びや道具作りなど伝統文化を次代に遊びを通じて伝えていく。その講師には地域住民や市内外の方に手を挙げてもらったり、お願いしたりする。	・田中駅近辺または田中商店街の空き家活用(将来的には祢津や北御牧などの地区毎に展開できれば最高) ・利用者は、子どもから高齢者までの多世代(例えば赤ちゃんを抱えたお母さんなども日向ぼっこに來れたら最高)

IV 共に支えあい、みんなが元気に暮らせるまち

- ◆大人も学び成長し続けられるまち
- ◆居場所が確保されているまち
- ◆健康寿命No1の暮らしやすいまち
- ◆使いやすい暮らしの足が確保されているまち
- ◆子どもが安心していられる場所が確保されているまち
- ◆地域で子どもを育てるまち

地域福祉	地域福祉についての理解と参加促進	・東御市が策定する「地域福祉計画」と 社会福祉協議会が策定する「地域福祉活動計画」を理解する。 ・各個人が積極的に地域福祉活動に参加する。	・住民各人が社会福祉に関わる社会福祉協議会の活動を理解し 住民が参加する機会を増やすため 見える化した分かりやすい資料を作成し開示する。資料作成の手伝いをする。 ・是非、中心的な指導者を軸に、地域で子供の見守り、指導等々、子育ては地域から。の先達として、組織化し活動ができる体制を構築してほしい。 ・福祉とか、障がい者とか、不登校とかの枠組みでなく誰でもが予約なし&利用料なく遊んだり時間を過ごせる地域コミュニティの活動拠点で安心して過ごせる居場所。 (※参考:東京都港区「芝の家」で、屋根のある公園とも呼ばれている。)
	障がいのある方の活躍	・障害を抱えていてもリモートで在宅勤務できる勤務体系・採用の構築→蓄えたノウハウを一般業務にも転用の検討	
困難を抱える若者の自立支援	若年層の活躍	・若年層の引きこもりや、社会とのつながりが少ない人たちの状況を地域では、かなりわかっているのではないかと。その地域の力を引き出すことができないか。それにより、引きこもっている皆さんの力が活用できる方法を考えられないか。隣近所など、かつての同級生などは、引きこもりの皆さんの特徴や好きだったこと、得意なことなど、知っているのではないかと。その辺から、何か引っ張り出せないか。SDGsの「だれ一人として取り残さない」を合言葉に。	・家庭での引きこもりに関するすべてのことを取り扱う、専門の部と課を設置してほしい。次第に増え続けていく事を考えればこれは本当に由々しきことです。地域も巻き添えにし、SDGsの「だれ一人として取り残さない」コンセプトを実践するために。題目ばかりやることや、世界の波に乗るための、多くの進める目標、169の項目があるが、このことは、基本的人権を守る意味でも不可欠なことで、真剣に設置を議論していただきたい。 ・ひきこもり対策の検討。
高齢者福祉	高齢者の生きがいづくり	・地区ごとに実施している清掃活動などへの出席 ・ボランティア活動での雷電手形押印や支給の管理 ・年金をいただいている皆さんには、自分たちの趣味やサークルに時間や費用を費やすのではなく、年金の支払いを働きながらしていただける若い皆さんの子育てを協力することが必要な時代になっていることをしっかり認識してほしい。(通学路の安全な登下校の見守りなどのボランティア) ・ゆとりの時間を地域の子どもたちのために使う。 ・公民館や空き家を利用し、学校の長期休みに勉強をみたり、話し相手や遊び相手になる。 ・昔の遊びや地域の歴史巡りなどもできるといい。	・人的資源を地域の役員、地域づくりの会などと相談しながらお願いする ・全くのボランティアではなく、多少なりとも有償とする
	介護予防	・空き家を利用してミニお茶会をして人が集う。	・空き家のリノベーション

V 地域の魅力を活かし、活力とにぎわいを生むまち

- ◆農産物・食を楽しめるまち
- ◆エコな移動手段として自転車の活用が進んでいるまち
- ◆使いやすい暮らしの足が確保されているまち
- ◆地域資源を活かした産業が元気なまち
- ◆働く場所が確保されているまち
- ◆情報が集まり、まちづくりを担う組織・場のあるまち
- ◆歴史文化を楽しめるまち
- ◆東御市ならではの店やアクティビティが充実したまち
- ◆未利用空間の利活用が活発なまち

農業	東御ブランドの確立	6次産業化	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルクアースで作られた苗を使い 地元野菜のブランド化を計る。 ・東御市の地産品(くるみ、ワイン、じゃがいも、ぶどう、米など)が生産を飲食店、レストラン、菓子やパン店の協力でメニュー、商品開発を積極的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・東御市の地産品(くるみ、ワイン、じゃがいも、ぶどう、米など)が生産して終りを、6次産業化、商工観光、観光協会、商工会が商品やメニュー開発する積極的支援制度、仕組みづくり ・滋野駅、田中駅前到店舗や観光スポット等、駅前ワイナリーやビアガーデンの創設 ・雷電クルミの里に隣接する6次産業として加工所を作り、地元のパン屋さん、パスタや、コーヒーショップ、ワインなど地域の方が経営する専門店が入った大きな施設を建設する。あるいは安曇野市にあるハマフラワーパークのような「かんでんばばが出店する」など事業者が商店街のような形で別々の建物で運営する方法もあるかと思う。クルミの里はとてにぎわっていることが多いように思い、集客力を生かしその流れを大きな流れになるよう活かせればよいと思う。
		関係者の組織化	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイナリーの横の連携を東御市ワイン協議会の創設(仮称) ・とうみワインクラブとの協業(各種イベント共催) ・コンソーシアムの設立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイナリーの横のつながりが弱く上記の関係区が支援強化 ・コンソーシアムの設立 事務局。
		情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産物のブランドを発信(※東御市にある、ワイナリーのワイン、「アトリエ ド フロマージュ」のチーズ(パリのチーズコンクール金賞受賞)、峯村牧場の牛肉(農林水産大臣賞受賞)、地元ビール(湯楽里館)、道の駅で販売されている地元米「ヨコセギマイ」など) 	
	地産地消の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・同世代の方(特に高齢者)でサークルを作り、定期的に活動する(※主な活動として、ワイン、果実飲料、米麦、野菜など、地産地消を実行し、促進する。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の場づくりと、講演会や見学ツアーなどによる指導者の育成 	
	農地流動化の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・地元野菜畑の面積拡大=放棄地の減少につなげる。 ・空き農地の情報提供(地元住民含む)、積極的(定期的)な情報発信する 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き農地情報発信(市報・市HPなど) ・上記物件を積極的登録して頂く仕組み、補助金制度の拡充 	
	農家への支援	経営基盤の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルクアース(株)のような野菜の接ぎ木苗を生産するメーカーが、生産の低コスト化 生産量 生産種類を増やすことができる拠点となる環境を整える。 ・生産の低コスト化のため、水力発電での発電量を増やす発電施設の増設。(塩沢第1、2発電所が近所にあるため池の水を利用する揚水式発電所建設) 	
省力化		<ul style="list-style-type: none"> ・ぶどうの農作業用としてサドル高さが変えられる3輪自転車を導入する(ぶどうの作業で房切 摘粒時は踏み台を使い 登ったり下りたりして作業する人がいて負担になる。3輪自転車では腰かけたままサドルの高さが自由に調整でき、作業ができると負担軽減になる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・広域農道の側道=農作業車が走れる両側道 を整備し自転車の通行を許可する 	
商業	企業への支援・育成	企業誘致	<ul style="list-style-type: none"> ・移住促進=企業誘致 は人口減少に歯止めをかけられる一方策であり 地域に合致したまたはかかわりのある企業を誘致する 促進調整機関の設立を計る。 ・個人的には GMO(ネーミングライツ企業)が東御市とかかわりを持てる条件を探り、グループ企業も含めサテライトオフィス 組織の一部移転等 住民の移動を伴う方策が実施できないか探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・促進調整機関の事務局
		地域内連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・企業規模から (株)ミマキエンジニアリングとGMOが協業できる新規事業事務所開設ができないか探る。 ・市内の既存企業の解析も機関が手掛け協業企業との拡大可能な事業提言を探る。 	
	新規起業家への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・県外などの移住者による古民家や空き店舗を取得し、事業開始する場合において、購入側は事業開始前の投資負担が増すこと、売り側は購入前の素性や事業経験値が不透明な中で地元で根付いた経営をしてもらえるか不安を抱えることがある。まちづくり会社もしくは関連会社が最初に不動産を取得してあげて賃貸形態をとり、事業成功後に人柄もよく分かったところで不動産を売却してあげるスキームをとるケースもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化に資する創業支援制度、移住者誘致の充実 	
	インターネットの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット販売を活用した収入増 ・海外業者との取引を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネット販売の支援 ・英語発信、輸出への支援。 	
	田中駅周辺のにぎわいづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・田中駅のホーム脇でジャズを演奏する「サンテラスバンド」が実に素晴らしい。 ・市内の生産者さんが作られた生産品による田中商店街でのマルシェへの運営・出店 ・市外の生産者さんが作られた生産品の田中商店街でのマルシェへの運営・出店(市内のモノだけでは物珍しさがなかったため。) ・東御市に本社を置く製造業・サービス業・情報IT産業の製品の紹介もマルシェに合わせて実施できたら 	<ul style="list-style-type: none"> ・田中商店街の再興 ・田中駅前での農家産直・朝市の開催の支援(イメージは宮崎県新富町の朝市、物販だけでなく、音楽や演舞などお祭りに近い感じ。江戸時代ごろでいう「市」の開催。13日に前後に開催するため十三市(とうみ市)とするような設定) ・田中駅前交差点一田中交差点間への飲食店出店の支援 ・田中駅前交差点一田中交差点間19時~24時までの歩行者天国 ・将来的にはサンテラスホールとラ・ヴェリテを統合し、ラ・ヴェリテ敷地に新しい文化会館を設計。(駅からラヴェリテまでの導線の創造。市内外からの集客機能を中心部に置くため) 	

観光	魅力ある観光地づくり	地域資源の活用と体験の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・住民、各種団体や自治会等による東御市の魅力(自然、歴史、文化)の発見とブランド化 ・現在ある地域資源の利活用と更なるブランド化 ・歴史散策ツアーの実施(各地域づくりの会との協業) ・「牛に引かれて善光寺参り」にちなんだサイクリングイベントの開催(布岩ー善光寺まで) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が地域資源を発見し育てるための機会づくりと、行政の主導 ・行政による、まちづくりを担う住民たちへの場所作りと資金の提供 ・市民から広く候補を出して頂く「おらほの歴史・文化」(仮称)づくり ・善光寺到着後の帰り道はしなの鉄道を利用できないか検討。
		体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・観光活性化に特化した企画・プロモーション・運営を担う「まちづくり会社」を設立。なお、観光協会を活用する方法もあるが、多数の会社員が属し、公平性を重視した活動としなければならない制約があるため、他地区でも導入事例のあるまちづくり会社の設立を提案。まちづくり会社の出資にあたり複数の地元企業が連携することで地域一体型の会社に行けることも可能。企画・プロモーションには専門知識人材、地元の歴史や関係に精通した有力者を動かせる信頼される人材のサポートがあると機能発揮が期待できるため、参画メンバーの選定が重要となる。 ・市の関係行政部門と連絡会を持つ。 ・市外の東御市出身者との交流と情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・市企画課、文化振興課、商工観光課、地域づくり支援室、教育委員会、観光協会、商工会、丸山晩霞記念館、各地域づくりの会との協業(他自治体、観光協会のベンチマーク実践)
		情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・住民、各種団体や自治会等による東御市の魅力(自然、歴史、文化)の発信作業 ・歴史・文化・観光のキーポイント(見どころ、強み)を明確にするため市民から広く候補を出して頂く「おらほの歴史・文化」(仮称)発信 ・市外での東御市PRイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流には世界各国で楽しめるワインの製造拠点を活かす方法が考えられる。 ・海野宿、芸術村、祢津などの観光コースを市民目線(自分の観光体験などを活かし)で提案を募集し、沿線沿いの店の情報やモデルコース(1日コース、半日コース、一泊二日コースなど)について東御市のホームページに掲載する。 ・HP、FB、SNS、各種チラシ、パンフレット、リーフレットの発信 ・市教育委員会と商工観光課、観光協会の協業強化により“歴史・文化で稼ぐ”+シティープロモーションの実践
		観光拠点としての整備	<ul style="list-style-type: none"> ・岩場のある東入地区の市民に岩場の価値(宿泊や飲食店利用者の増加)と地域振興になることを理解してもらい、協働して岩場の整備を行うこと。 ・岩場の整備:アプローチ道の整備、草刈り等 ・岩場近くの「大田区休養村とうぶ」や「エコロピアの森キャンプ場」の駐車場やトイレ利用の許可を得ること。(駐車料金は有料(300円～500円程度)で市民はできたら安く) ・岩場のガイドブック(TOPO)を「エコロピアの森キャンプ場」や「大田区休養村とうぶ」で販売してもらい、岩場整備費用の補助とする。 ・「エコロピアのキャンプ場」等でのクライミング用具(マットやクライミングシューズ)の有償での貸し出し。 ・マイカーでの利用者の視点の検討。必ず田中とサンライン上側の観光客の導線を設定しなくてもいいという見方(おそらく観光客の客層が違う) ・玄関口(道の駅雷電くるみの里、高速バス停、滋野駅、田中駅)前に店舗や観光スポットの創造 ・宿泊施設が少ない・・・ルートインホテルズ等とのコラボ 	<ul style="list-style-type: none"> ・国有林の利用に対して無償借取契約を結ぶこと。 ・東入区で管理している森林利用の許可を得ること。 ・岩場近くの「大田区休養村とうぶ」や「エコロピアの森キャンプ場」の駐車場やトイレ利用の許可を得ること。(駐車料金は有料(300円～500円程度)で市民はできたら安く) ・クライミングで町おこしをしている地域への視察(岐阜県笠置町、長野県川上村など) ・貸し出し用eバイク(観光用)の導入(田中駅、中央公園、湯ノ丸等) ・宿泊施設を増やすためにルートインホテルズ等の積極的誘致 ・玄関口、道の駅雷電くるみの里、高速バス停、滋野駅、田中駅)前に店舗や観光スポットの紹介(案内)所の設置 ・マイカー利用、湯の丸の観光客の視点の取入れ。海野宿を除きサンラインより上へ行く。利用の施策以外に湯の丸・サンライン・東部湯の丸SAを拠点とした視野の設定。かつ市外でのPR活動の推進(近くは軽井沢の別荘滞在者) ・湯楽里館の大浴場のガラス曇りの改善。風景が評判いいが、ガラス曇りがひどく、大浴場から何も見えない。魅力アップにつながりやすいので改善を推奨 ・高速バス停留所の活用。バスタ新宿の次は東部湯の丸SAという路線もある。SAをハブとしたアクセス方法も検討
		スポーツコミッションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・湯の丸キャンプ場をベースとした5日～7日の長期キャンプのPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・湯の丸高地トレーニングセンターの広域化 世界のアスリートが練習に励むアメリカコロラド州のボルダーの高地トレーニングセンターは、広大です。世界の高地トレーニングのメッカを目指しているそうです。また、わが日本には、岐阜県にある「飛騨御岳高地トレーニングエリア」があり、高地トレーニング場として注目されているそうです。東御市が苦慮のうえに造った「湯ノ丸トレーニングセンター」を全国、国際的な高地トレーニングセンターにしたいものです。それには、マラソンコースがはいる広大さでありたいものです。ある規模があれば、国際競技大会(夏季、冬季、各種自転車競技など)を開催することです。国際的、競技大会を開催すれば、おのずから東御市の知名度が世界に発信されることになります。ここで施設が世界規模であることが求められます。これを十分なものにするには、上田市、群馬県嬬恋村、小諸市などと狭い行政区分にとらわれず、広域になっていきます。上田市は、菅平高原がらぐびー上のメッカと言われています。この広域トレーニングエリアの中心、核となるのは国際水準の競技用プール、トラックなどを要する東御市であります。
移住・定住	定住人口の増加	<ul style="list-style-type: none"> ・同世代の方(特に高齢者)でサークルを作り、定期的に活動する(※主な活動として、三世同居の利点を広め、実世帯数を増やす。⇒消費の増加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の場づくりと、講演会や見学ツアーなどによる指導者の育成 	
	シティプロモーション	<ul style="list-style-type: none"> ・『移住したい市・No.1』を実現するための、まちづくりの具体的提言と参画、実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の充実とリンクさせ、都市部人材や国際交流を豊かにさせることで、「ほどよい田舎」にありながら、先端教育の一部でも学べる環境づくりを目指し、人流や情報の集積の発着地点になる拠点を創造していく。 ・ホームページの玄関とも言えるトップページを今のものから駒ヶ根市のように変更すれば良いと以前から提言しているが、ぜひ実行してほしい。 駒ヶ根市では ①くらし・行政②移住③子育て④観光 と4つの窓を設け、市はこの4つに力を入れていることが一目で飛び込んでくる。 ・積極的にかつ有効なシティプロモーションの実施とそれへの市民参加 ・行政による、積極的な安全安心なまちづくりの推進。特に、弱い者が安心して生活できる環境は、地域ブランドとして発信できます。 ・「程よく、田舎、とうみ」もいいとは思いますが、これから世界に発信していく東御市は、35億人といわれる英語圏に向けて「Tom City」にし、「トミーシティ」を愛称にしたいと思っています。 	

VI 市民と共に歩む参画と共同のまち					
◆情報が集まり、まちづくりを担う組織・場のあるまち					
◆活動、魅力が共有されるまち					
	協働のまちづくり	まちづくりの仕組みづくりと実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとつの拠点(事務所)を設けて、まちづくりを担う組織のメンバーが憩い、立ち寄れる拠点をつくる。メンバー以外も立ち寄れる。まちづくり、魅力、情報が集まる場所。各団体それぞれが特長的な活動を行っており、団体の長やメンバーが集う場所となり、新たな繋がりやコラボが生まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりを担う組織のメンバーが憩い、立ち寄れる活動拠点として海野宿にある「うんのわ」の2階を活用する。地元の方々に施設があることを認識していただく目的。 ・行政が、市民のまちづくりに関する提言に対し常に耳を傾け、市民と協働のまちづくりが勢い良く進んでいるという環境づくり 	
		区単位の地域づくりへの参加の呼びかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・住んでいる市民が、東御市はいい市だという幸せ感を持ちながら、暮らせるまちづくりをしていく。そのためには、良い部分に気が付くこと。それは、現在行われているいろいろな催し物に参加すること。市民一人ひとりの自主性が大切だが、なかなか、生活に追われていけばそれが出にくいので、各区の催し物などを行うときに、積極的に、講座を使ってもらい、常に、広報してもらい、市で行っているもの、ことを、区全体で勉強や知ることを重ねれば、みんなで、成長していければ、違う発展性が出てくると考える。 ・若者が広報などを読まないことが多いが、区組織に入り込めば、必然的に、いろいろなことを知る機会にもなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所のリードが必要。このようなことをやっている、このような歴史がある、こんな運動があるなど、積極的な工夫をして、各区で、出前講座などとして利用するよう働きかける。(活用すると助成金が出るなどとして、働きかけ、定着したら、切ればいい。) 	
	行財政運営	行政サービスの効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所への届出契約書のオンライン申請の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の届出・契約書のオンライン申請対応を進める。 	